事　例　編

事例１　福島県県北保健福祉事務所の家族教室　・・・　２３ページ
事例２　福島県県中保健福祉事務所の家族教室　・・・　２７ページ
事例３　福島県会津保健福祉事務所の家族教室　・・・　３０ページ
事例４　福島県精神保健福祉センターの家族教室　・・・　３３ページ

（事例１）福島県県北保健福祉事務所「平成１５年度ひきこもり家族教室」

１．目　的（１）家族の孤立を防止すると共に、家族が抱えている問題の解決のために、家族自身の持つ心理社会的な力を回復、強化する。

（２）同質の集団が持つ相互援助的な力を活用し、心理社会的支援をする。

（３）事業をして、よりよい教室内容や支援体制の検討を行う。

２．対　象Ａ　２０－３０代の青年期を中心とした社会的ひきこもりケースで、事前相談やケース検討会を行い、ひきこもり家族教室が必要なケース（平成１５年度から）

Ｂ　中学校卒業以降の不登校、不就労の社会不適応による社会的ひきこもりケースで事前相談やケース検討会を行い、家族教室が必要なケース（平成１６年度から）

３．実施場所　県北保健福祉事務所

４．周知方法　対象者に個別に周知する。

５．スタッフ　県北保健福祉事務所保健師、心理判定員、精神保健福祉センター保健師及び心理判定員

６．内　容

回＼テーマ	教育的セッション	グループセッション
第１回	「社会的ひきこもり」 講師：精神保健福祉センター	開講式、①導入：私が現在、困っていること ②　日常の食事の関わりについて
第２回	「社会的ひきこもりの要因、回復のプロセス」 講師：精神保健福祉センター	①　導入：４最近ちょっと良いこと ②　食事を通したコミニュケーションのとり方と関わり方、暴力や大きな声をあげる時や物を投げる時の対応
第３回	「家族の支えと具体的対応」 講師：県北保健福祉事務所	①　導入：私が困っていること ②　親子でコミニュケーションをとれるようになりたい。本人とのコミニュケーションをどうしたらいいか。
第４回	「私（家族）の性格傾向を振り返る」 ―エゴグラムの実施― 講師：心理判定員	①　導入：私のほっとすること ②　私は本人と○○できるようになりたい。
第５回	「ひきこもりの具体的対応―コミニュケーションについて」 講師：心理判定員	①　導入：私が子どもと話したいこと ②　私が子どもと話したいこと

第６回	「本人の自立について考える」 講師：ＮＰＯ法人職員	①家族の近況、一年間の感想・要望 閉講式

７．参加者数

回＼人数	実人数　名	延人数　名
第１回	８名（６家族）	８名（６家族）
第２回	４名（４）	11名（９）
第３回	４名（３）	13名（11）
第４回	４名（３）	14名（12）
第５回	０名（０）	８名　（９）
第６回	０名（０）	12名（10）
計	20名（16）	66名（57）

・参加経路：継続ケース　6名、広報誌０名、医療機関から　０名、市町村から2名、その他８名（電話３名、精神保健福祉センター2名、来所相談2名、通報１名）

・参加の選別（疾病の有無の判断）：
（嘱託医と保健師による全員のケースミーティングにおいて決定）

・参加者の状況：母のみ参加１０名、父のみ参加2名、両親参加４組

・本人の年齢：１０代０名、２０代１３名、３０代３名

・ひきこもり期間：１年未満１名、１～５年未満７名
５～１０年未満６名、１０年以上１名

・本人の性別：男１３名、女３名

８．参加者の感想等（最終回分の感想）

・家族教室に来て、気分が楽になった。家族の関わりの変化により、本人が手伝ってくれる事あり。家族も家の中を明るくしている。

・家族教室に参加して良かった。家庭の中を明るくしたい。

・子どもがひきこもって親をやめたいと思ったが、家族のこと夫婦のことを考えさせられた。

・毎日が混沌としていたが、家族教室に来て家族自身が変わり、本人も変化した。頑張ってみようかという気持ちになった。

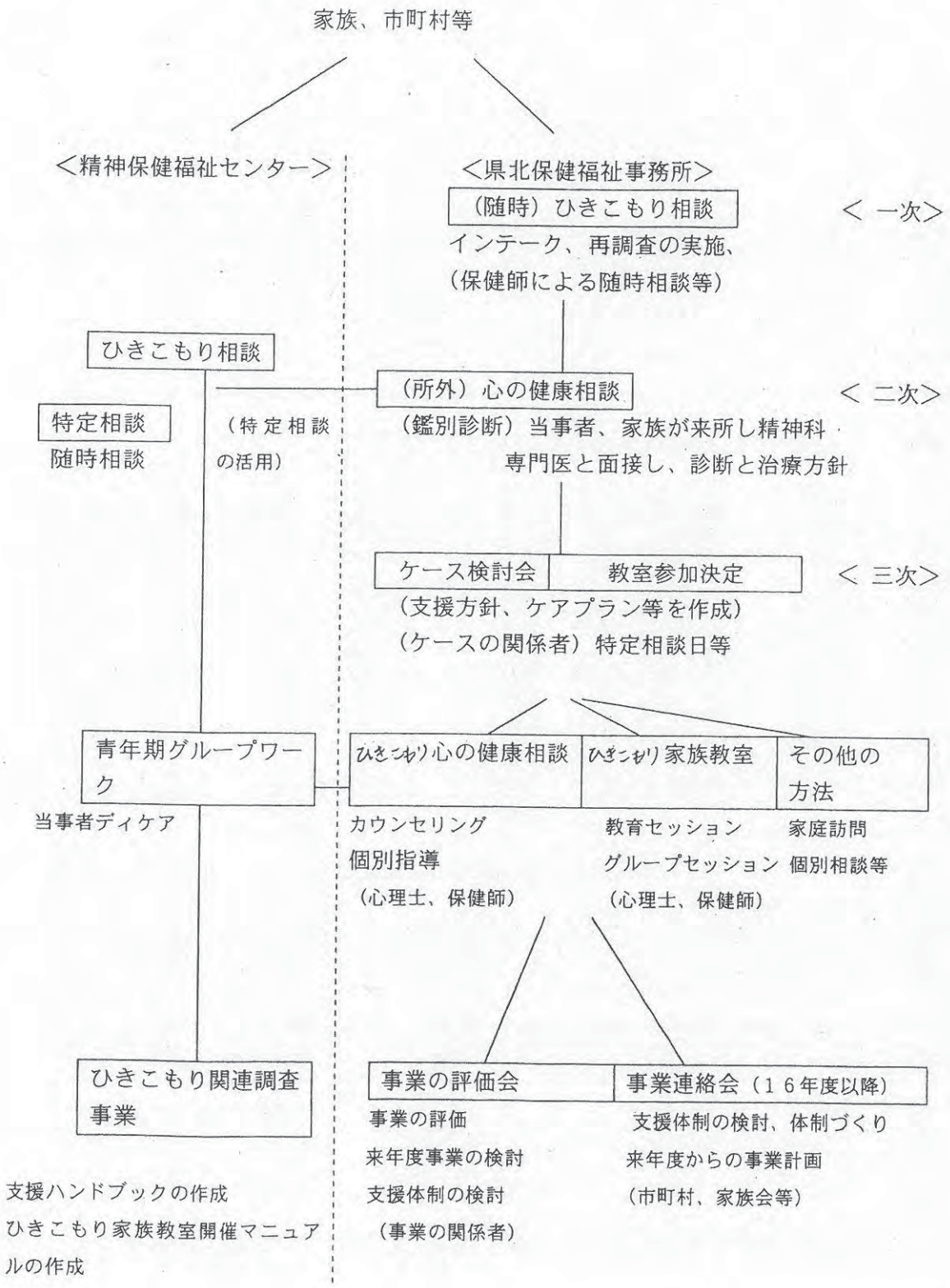
・家族自身がひきこもりになっていたが、家族教室に参加することで、人前で話すことの訓練になった。家族自身が人の話を聞けるようになり、子どももゆとりが出て、父と雑談できるようになった。これからも参加したい。仲間がいることを知り良かった。

・家族教室に入ったとたん気持ちが楽になった。暴力を振るう子どもが振るわなくなったので感謝している。

・家族は本人を信じて、自然に自立できるよう待つ。

・家族は、少し変われたかな？子は子、親は親なるようにしかならないと思い来た。

・自分の息子に時間をさかなければならないと思ったが、自分のために来ていることを再認した。見通しのないところを待つということは大変だが、また教室に来たい。

９．ひきこもり家族通信（家族教室欠席者に対して６回配布）

平成１５年度県北地域における心の健康サポート事業フローチャート